

# LORO

モノマガジン特別編集  
都市生活とインテリアのトータル・コーディネート・マガジン  
『ロロ』 Vol.16

© WPP (禁・無断転載)  
カバー写真 三部正博 SANBE Masahiro  
カバースタイリング 田中美和子 TANAKA Miwako  
カバーデザイン 3MIN. GRAPHIC ASSOCIATES



## LORO 目次

- 6 イントロダクション
- 8 クリエイターの住まい オランダ編
  
- 22 いま気になるファブリック・ブランド  
クリスチャン・フィッシュバハ/JAB/デザイナーズ ギルド/マリメッコ

## 30 [特集]

# ファブリック LOVE!

- 38 自然体で楽しめるファブリック使いがおすすめ  
——三井デザインテック インテリアコーディネーター/木村誠子さん
- 40 インタビュー① 西陣織 細尾  
細尾真孝さん
- 42 ソファ ファブリック素材を知ろう
- 44 ソファの張り地を替えてみよう
- 46 ファブリック素材のランクを学ぼう
- 48 ソファの色や柄選びのコツ
- 50 インタビュー② テキスタイルデザイナー  
須藤玲子さん/NUNO代表
- 52 ファブリックブランド カタログ
- 54 インタビュー③ テキスタイルデザイナー  
鈴木マサル/OTTAIPINU 代表
- 56 ファブリック目線のインテリアカタログ







湯たんぽカバー8190円◎ビショップ/レイ  
バー・アンド・ウエイト、湯たんぽ2100円◎アン  
グローバル/マーガレット・ハウエル ハウス  
ホールドグッズ、真鍮ケトル7万4550円◎キコ/  
 Bangladesh、シャツ3万4500円◎ビショップ  
/ケイシー ケイシー、エプロン1万8900円◎キコ  
/エプロン商会、ネックレス・時計/モデル私物

湯たんぽにも、もちろんファブリック

[特集]

# ファブリック LOVE!

部屋の雰囲気をガラリとかわる力をもつファブリック。季節によってクッションのカバーリングをかえたり、ブランケットやベッドスプレッドの素材や質感にこだわったり……。また、お祝いのときなどにはテーブルクロスやランチョンマットで気分をかわるのもおすすめ。ファブリック目線でコーディネートを考えてみれば、インテリア空間をもっと楽しめるはず。

Photo=三部正博 SANBE Masahiro Styling=田中美和子 TANAKA Miwako  
Hair&Make-up=宮本佳和 MIYAMOTO Yoshikazu Model=スベトラーナ I. Svetlana I.

季節に合わせてファブリックを着替える



ウインズロー1.5seatソファ54万6840円、「リベコホーム」のソファカバー10万5840円、ブロックキューブ10万5000円、ボタン付きのニットクッションカバー7875円、ヌードクッション(45×45cm)2310円◎すべてザ・コンランショップ、モデルが持っているクッションカバー9450円、ヌードクッション(50×50cm)3400円◎ともにリベコホーム、深緑の「コートビエール」のクッション1万3440円、ネイビーの「カディ アンド コー」のクッション6090円、「カディ アンド コー」のストール7万1400円◎すべてクォーターリー 青山店、ロゴ入りのクッション9240円◎シック/セカンドラブ、床の上のクッションカバー1万2600円◎エイチ・ビー・デコ、キューブ上のグラス1万1550円◎アングローバル/マーガレット・ハウエル ハウスホールドグッズ、木製のサイドテーブル2万1000円◎バスザバトン表参道店/バスザバトン、駅の時計・電波ウォールクロック7900円◎無印良品 池袋西武/無印良品、シャツ9240円◎ビショップ/ジムフレックス、「エプロン商会」のエプロン1万8900円、「ダンスコ」のサンダル2万2890円◎ともにキコ、ネックレス/私物



# ファブリックブランド カタログ

## FABRIC BRAND CATALOGUE

100年以上の歴史をもつ老舗から新進気鋭のブランドまで、数あるファブリックブランドの中から、国内外の11社をここに紹介。ファブリックを選ぶ際にはぜひこのカタログを参考に！

Text=ロコ編集部 LORO Magazine



**8** **Création Baumann**  
[クリエーション バウマン]

1886年、スイスのランゲンタールに誕生して以来、業績を伸ばし続けるファブリックメーカー。製品のデザイン、技術開発、生産までのすべてをスイスの本社と工場で行っている。市場の要求を見据えながら、デザイン面でも妥協しない製品開発により、本社に管理される600アイテムの生地が、世界40か国に届けられている。@クリエーションバウマン ジャパン



**7** **NEED'K textile**  
[ニーディック テキスタイル]

1959年創業の日本のファブリックメーカー。自社ブランド「IMECA」のなかで、モダン、ネオクラシカル、エスニックなど、多彩なコレクションを展開する。生地そのものの美しさと独自性を重視し、さまざまな産地からの異素材の組み合わせで、既成概念にとらわれない製品を輩出。現在はニューヨークを始め、上海、ロンドンなど世界38か国に展開する。@ニーディック



**6** **Andrew Martin**  
[アンドリュウ・マーチン]

インテリアデザイナーのMartin WallerとAndrew Gillespieにより、1978年に創業したイギリスのテキスタイルメーカー。斬新でグローバルなデザインを提供し、世界の工芸品や文化的遺産を上品で現代的なスタイルに変換させた、その独特な色調と風合いはつねに業界で注目を浴びている。家具、壁紙、アクセサリが世界中に流通している。@チェルシーインターナショナル



**2** **SOLEIL BLEU**  
[ソレイユ ブルー]

1919年にドイツで創業し、フランスの街や時代をテーマにした華やかで女性らしいコレクションを展開する。まるで絵画のようなプリントや繊細な刺しゅうを施したファブリックなど、インテリアに気品を添えるさまざまなアイテムをラインアップ。その多くが上質の天然素材によって構成されている。2008年にはJABグループの傘下に収まった。@ナショナルインテリア



**1** **ZIMMER+ROHDE**  
[チマー&ロード]

1899年にフランクフルトに誕生して以来、インテリア業界を牽引してきたヨーロッパ最高級ブランドのひとつ。「Fine Cloth」をコンセプトに素材や色彩、デザインの研究を続け、伝統的ながらもモダンな色使いと斬新なテクスチャーを武器に、新しさと普遍性を兼ね備えたファブリックを生産する。世界中の支店との緊密なやりとりをすることで、つねにファッションを含めた世界の最新の流行も意識している。@チェルシーインターナショナル



**11** **BOUSSAC**  
[ブザック]

1763年にフランスで誕生したファブリックメーカー。アルザス地方の水源地に作られた工場から鮮やかなプリント生地が生み出され、ルイ16世の時代には王室御用達にも認定された。現在は大柄で美しい色彩のプリントファブリックとジャガードやベルベットなどの高級ラインのほか、カジュアルなプリントやプレーンな生地を扱っている。@ナショナルインテリア



**10** **STROHEIM**  
[ストロハイム]

1865年、ニューヨークに創業し、ヨーロッパの伝統を感じさせながら、新しい素材や色使いにも挑戦する老舗メーカー。プリントからジャガード、シェニール、ブロードといったファブリックだけでなく、タイバックやトリミングなどカーテン関連のアイテムも充実。定評のある椅子の張地は、ホワイトハウスを始め米国内の高級ホテルでも採用されている。@ナショナルインテリア



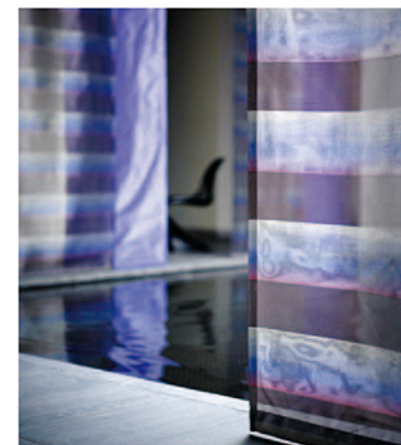
**9** **CHIVASSO**  
[キファソ]

デザイナーであるRichard James Schuttelが1991年に初のコレクションを発表して以来、「Fashionable Collection」をコンセプトに毎年「CHIVASSO」と「CARLUCCI DI CHIVASSO」という2つのラインを展開。トレンドを意識し、鮮やかなプリントやジャガードとプレーンな生地の組み合わせなど、色彩豊かな若々しいラインアップが特徴だ。@ナショナルインテリア



**5** **Knoll Textiles**  
[ノル テキスタイルズ]

アメリカの家具メーカーKnollのテキスタイル部門として、1947年、フローレンス・ノルによって設立。アメリカンモダンの洗練されたデザインと、環境に配慮したリサイクル素材、機能性に優れた高品質なファブリックが特徴で、著名なデザイナーを起用したコレクションを展開する。住宅やオフィスを始め、商業施設などさまざまな空間に提供している。@Knoll Japan



**4** **FUJIE TEXTILE PROFILE**  
[プロファイル]

明治18年に織物業からインテリアファブリックへ進出し、そのデザインと品質へのこだわりは「モダンシンプル」として海外でも評判が高い。「プロファイル」は、日本の美意識をベースにテキスタイルの新たな可能性を追求するために誕生した。多重構造による織物のグレース感や手の込んだ加工技術、繊細な色表現には日本の先端技術が駆使されている。@フジエテキスタイル



**3** **SAHCO**  
[サコ]

ニュールンベルグを本拠に160年以上の歴史をもつ。「クラシックとモダンの融合」をコンセプトに、つねに最高度の「魅力、革新、品質」のファブリックを追求し続ける。コレクションはインハウスのデザイナーと、世界的トップデザイナーのウルフ・モーリッツのラインがあり、アクセサリ、クッション、ラグなども含めトータルに展開している。@マナトレーディング





# Japan Made, Japan Brand

ひと昔前と比べて、われわれ日本人の体形はずいぶんと変わりました。30代男女の平均身長は1950年頃は男性で160cmを僅かに超えるくらい、女性は149cmくらいでした。それが2010年の調査では男性が171.5cm、女性は158cmくらいになっています。身長が変われば、たとえば椅子の座高も変わってきます。インテリアの世界では、西欧の家具は日本人のサイズではないので見た目だけで決めてはならない、というのが常識でしたが、時代と共に西欧の人々との肉体的格差はどんどん縮まっているようです。日本の家具ブランドが凄いのは、こうした変化に対応するモノ作りがハイレベルで実現されている点。福岡県で見つけた家具も、そうした日本人の目線が印象的でした。

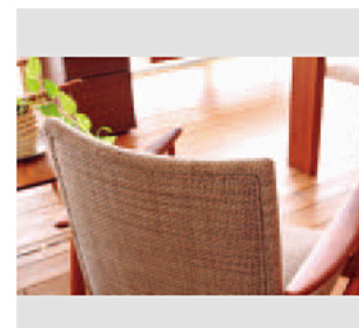
【特集】

生活者の目線で  
作られる  
福岡県の家具。

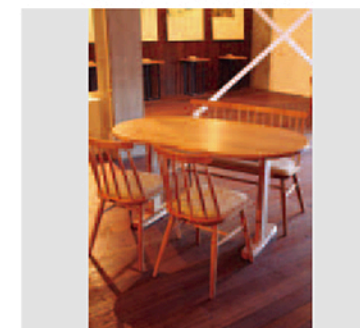


Photo=今村成明 IMAMURA Nariaki  
Text=ロロ編集部 LORO Magazine  
Coordination=三井デザインテック MITSUI DESIGN TEC

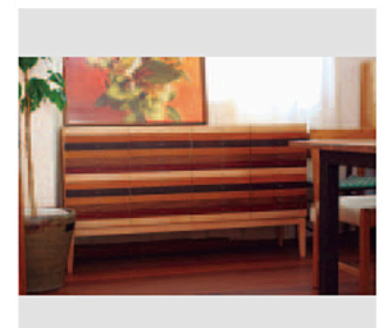
### 3. リッツウェル



### 2. ナガノインテリア



### 1. 広松木工







## 02 PP701 Hans J. Wegner

ウェグナーが  
自邸のために  
デザインした椅子



ハンス・J・ウェグナー  
Hans Jorgensen Wegner

1914~2007

デンマークの家具デザイナー。20世紀の北欧デザインを代表する人物で、その椅子はニューヨーク近代美術館を始め、多くのミュージアムでコレクションされている。アルネ・ヤコブセンの事務所勤務を経て独立。出身校であるコペンハーゲン美術工芸学校で教鞭をとりながら、デンマーク協同連合会家具部門のために家具デザインを行った。アメリカ大統領選のテレビ討論でJ.F.ケネディが使用して有名になった「ザ・チェア」や「ピーコック・チェア」なども有名。2007年に92歳で死去した。

ハンス・ウェグナーの作品の中でも数少ない、スチール脚のデザインを持つ『PP701』。実はこの椅子はウェグナー邸において、自分たちが使う椅子としてデザインされたもの。1965年のデザイン当初、食卓に腕が伸びやすいようにと、テーブルの天板とアーム部を同じ高さにする、という意匠だった。家具が家の中でどう機能すべきかを考えた場合、ダイニングテーブルと椅子の肘掛の高さに段差があるのを良しとしなかったわけである。背もたれには、4ピースに分かれた木材を寄木にして十字型の楔（くさび）で結んだデザインが採用され、繊細なデザインを実現している。本来は木工上の補強パーツである楔を、デザインのポイントにした秀作といえるだろう。スマートでも軽い印象だが、座り心地がよく、丈夫な作り。4脚までスタッキングできるのも特徴。価格15万3300円（アッシュソープ）  
©スカンジナビアンリビング



## 01 Ball Clock George Nelson

デザインで時間を遊んだ  
1950年代の傑作



ジョージ・ネルソン  
George Nelson

1908~1986

イェール大学で建築の学位を取得後、ローマのアメリカンアカデミーで学び、その後、ウィリアム・ハンビーと共にニューヨークに建築事務所を設立。建築雑誌の編集長を務め多くの著書を上梓した。1946年から20年間、ハーマン・ミラー社でデザイン部長の職に就き、当時無名のチャールズ&レイ・イームズ夫妻の才能を見抜いて世に送り出した。イームズ夫妻の他にもエーロ・サーリネン、イサム・ノグチらをハーマン・ミラー社のデザイナーとして起用し、同社を世界的な家具メーカーに成長させた功労者でもある。

ミッドセンチュリーを代表するウォールクロックの傑作品。ジョージ・ネルソンによる『ネルソン・クロック』。カラフルなボールと、それを支える直線の見事な対比。50年代に発表され、クリエイティブ面で高い評価を得て、同時に商業的な成功も収めた。世界的な競争が終わり、ファッションや新しいポップカルチャーの台頭が見え始めていたアメリカの、当時の時代の空気を敏感に形にした秀作といえるのではないだろうか。大胆なグラフィックと思い切った原色の配置、時計という、ある意味では厳かな存在の道具を、初めてポップに遊び倒したセンスには感嘆するしかない。ヴァイトラ・デザイン・ミュージアムによって復刻された、永く記憶されるべきデザイン・アイテム。現在の製品に使われているムーブメントは、電波時計で有名なドイツのユンハンス製。価格2万9400円。  
©Anstyle.com 青山本店